



きつとつながる。吉都でつなぐ **STATION**
吉都線の駅

小林市内にある小林駅と西小林駅。2つの駅は、私たちの暮らしやまちの発展にどのように関わってきたのでしょうか。



西小林駅

Interview

戦後に神戸から両親と移住し、駅前で衣料品店を営んできた
もりてつじ 森哲治 さん (78)

私が若いころは、駅には千歳や環野地区から切り出された大きな木を貨物車で運んでいました。私の家は、駅前で衣料品店を営んでおり、盆や正月前の店内は、お客さんでいっぱい。駅周辺は、多くの店があり、たくさんの人で賑わっていました。朝の汽車は、通学する高校生で満員で、外のデッキにつかまったまま、小林駅まで行く光景も見られました。



森さんが駅前で営んだ昭和40年頃の西小林森衣料品店

西 小林駅が開業したのは、吉都線開通から17年後のこと。大量輸送を可能にし、地域に計り知れない経済効果をもたらす鉄道駅の設置は、西小林地区の人々の悲願でした。そこで、吉松小林間が開業した当初から、地域の人々は、請願など駅の積極的な誘致活動を展開。そして、昭和4年、待望の駅設置が叶いました。開業した

ときは、祝賀会が駅前広場で催され、地域住民総出で祝われました。その後、駅前には、通勤や買い出しに出る利用客や貨物であふれ、周辺には食堂や商店が立ち、一つのまちができました。また、市街地から遠かった同地域は、鉄道の利用が可能になったことで、学生の通学を容易にするなど、とても大きな役割を果たしてきました。

3 旧駅舎の裏で砂遊びをする少年
4 地域の老人クラブにより駅はきれいに保たれている



地域住民の悲願だった駅の開業 駅前には店が軒を連ね、活気にあふれた

小 林駅が開業したのは大正元年。吉松〜小林間の開通に伴う、盛大な開通式とともに産声をあげました。自動車が少ない当時、鉄道の開通は、多くの人の移動や物の輸送を容易にし、地域経済の活性化に大きな役割を果たしました。駅には、霧島などから切り出された良質な木材や、市内の農産物が集まり、貨物列車に積ま

れて、福岡や鹿児島へ運ばれていきます。そして、駅周辺は多くの人で溢れ、それに伴い旅館、商店や食堂などが立ち並び、活気に溢れていきました。



1 昭和50年頃の駅前通り。五日町・上之馬場線 2 昭和29年の小林駅舎

小林駅

Interview

本町商店街で140年以上続く、老舗の薬局町元保健堂 3代目店主
まちもとひろなお 町元宏禎 さん (81)

私が子どものころ、この辺りには、川が流れ、ホタルが飛び、魚釣りもしていました。小林駅ができてから、人が周辺に住むようになり、商店街ができたと聞いています。私の薬局も、その頃に今の場所へ移ってきました。盆や正月前には、地元の人や、汽車に乗って来る買い物客が多く、店の前を走る国道は、多くの人でごった返していました。



昭和30年代後半の駅前通り